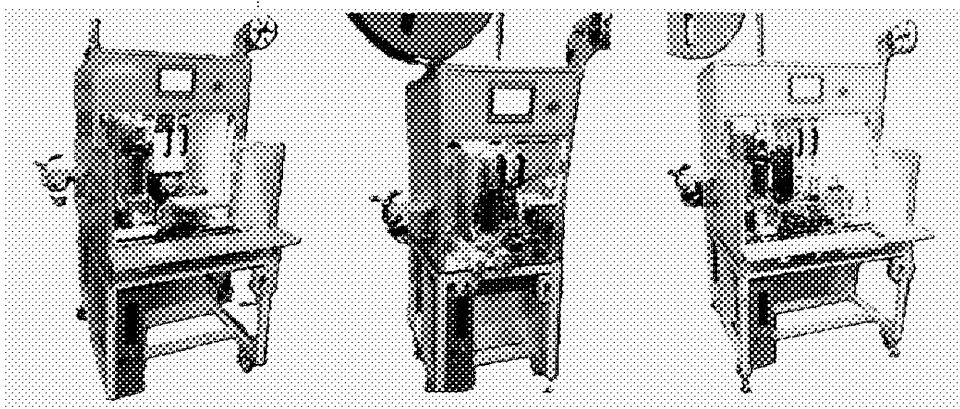


同軸線加工機に参入

3台の加工機を使い、複雑な同軸線の加工を自動化する

日本オートマチック

車載コネクタ―規格対応



日本オートマチックマシン（東京都大田区、水野雅文社長）は、車載向けコネクタ―規格「FAKRA（ファクラ）」などに対応した同軸線加工機に参入する。高速伝送、耐ノイズ性が高いFAKRA対応コネクタ―などを加工できる。複雑な加工を自動化した三つの加工機を2月からセット販売する。価格は約1650万円（消費税抜き）。内外で車関連のワイヤハーネス（組み電線）メーカーに提案し、3年で100台の販売を目指す。

最初の工程の加工機「ZX511」は自社開発の専用治具に電線をセットし、ロータリー刃で外皮を剥き、編組線（編み込んだ銅線）の状態となった電線にスリーブを圧着する。

最終工程の加工機「同513」は編組線の折り返し漏れを検査した後、内導体端子の位置を確認し、外導体の端子を圧着する。

次の工程の加工機「同512」はアルミ箔とフェール部を剥き、露出した芯線の先程に受け渡すが、各工

程の自動化により1本の電線を30秒程度で加工できる。FAKRA対応コネクタ―は欧州や中国で採用が進むものの、日本は市場が立ち上がっていないため、まずは小ロットの自動化ニーズに応える。

3台の加工機は幅が約4・5尺、奥行きが約1・5尺に設置できる。21日から東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催される専門展示会「インターネッコンジャパン」で実機を参考出品する。